

日本臨床発達心理士会 大阪・和歌山支部 2022 年度総会について（結果ご報告）

2022 年度支部総会は、新型コロナウイルス感染防止のためオンライン形式で、2022 年 4 月 23 日（土）～5 月 3 日（火）に開催されました。

その結果、総会定足数（議決権のある会員 258 名の過半数 130 名）に対し、回答 112 件、有効回答者数*が 109 名となり、総会は成立せず仮総会となります。

※2 度送信された方が 1 名おられましたが回答は同じで 1 票となります。また、資格更新延期中の 2 名は議決権がありませんので無効票となりました。議決権についてあらかじめ示していなかったことをお詫び申し上げます。

仮総会として、下記議事詳細に示す通り、すべての審議案件は仮成立したことをご報告いたします。

今後、支部規約により、本仮総会内容について、この文書を公示した後 7 日以内に支部会員 3 名以上の連名署名による異議申し立てが示されない場合、もしくは異議申し立てがあっても 30 日以内に支部会員の 4 分の 1 以上の署名による反対がない場合、総会が成立したものと取り扱います。

今年度の異議申し立てについては、申し立てをされる支部会員 3 名以上の登録番号・ご氏名を明記の上、電子メールを 5 月 13 日（金）の正午までに hanwa@jacdp-kansai.org までお送りください。申し立てがあった場合は支部 HP と支部会員メールで告知します。

なお、総会成立についてはこの支部ホームページで発表し、発表された旨を支部会員の皆さまにメールでお知らせします。

以下に議事（いただいたご質問・ご意見等に関する回答を含む）をお知らせいたします。

2022 年 5 月 6 日

日本臨床発達心理士会大阪・和歌山支部 事務局

日本臨床発達心理士会 大阪・和歌山支部 2022 年度総会議事（仮総会）

1. 報告案件

1-1. 日本臨床発達心理士会の法人化について（資料 1 参照）

質問：なぜ、統一した法人としないのでしょうか。例えば、事務管理の人件費など、1 法人である方が、効率的であり、経営的にも健全かと思いますが。

回答：資格認定団体である機構と臨床発達心理士会が統一された法人である場合ですが、それで士会が職能団体として機能可能かを長期間にわたって模索していましたが無理だったようです。職能団体として独立した法人でないために、例えばスクールカウンセラーを会員から出せるように教育委員会と契約するなどの職域拡大にこれまで困難がありました。また、一会員を自治体等に推薦することも法人代表（機構理事長）からは可能ではありませんでした。会員を守る立場である職能団体と資格を認定する立場である機構とは、極端に言えば利益相反の関係にあると考えられます。大きな経費増にならない点も確認されていますのでご安心ください。このような根拠と詳細については士会本部が発表するよう求めますのでよろしくお願いいたします。

資料 1 に、支部が独立した法人になっていく構想図があったために、ご質問がもし、支部ごとに独立した法人として受け止められているならば回答は異なります。

法的には、支部が法人として独立をめざす場合にこれを妨げることはできませんが、士会としてはこれを推奨していません。ご指摘の通り、その経費や業務量が支部の大きな負担となるからです。資料 1 は士会の構想を反映しておらず、機構の理事長が推測する将来像を描いたものであると理解しています。資料 1 は、ようやく機構が士会の独立を承認した根拠資料として提示しました。

士会の独立法人化については、支部会員のみなさまに逐一の経過報告を怠ったために不安をお感じであったとお詫び申し上げます。

1-2. 2021 年度収支報告について（資料 2）

ご意見なし

2. 審議案件

2-1. 2021 年度活動報告

承認 109、反対 0、修正後承認 0 により仮成立とする。ご意見なし。

2-2. 2022 年度活動計画（案）について

承認 107、反対 0、修正後承認 2 により仮成立とする。

修正案 1：心理検査の研修や、保幼小の連携、小中の連携の研修、起立性障害、不登校への支援についての研修を希望します。

回答：ご意見ありがとうございます。就学を視野に入れた保幼での言語発達支援の考え方に
関する研修会を昨年度は企画させていただきましたが、ご提案のその他のテーマは確かに
支部ではおろそかであったと思われます。なにぶん企画には 1 年がかりであることが多い
ために今年度の企画の変更はご容赦ください。次年度以降の支部研修会の企画の際に採り
入れられるように検討させていただきます。また、現在は、オンライン開催の支部が多いた
め、他支部研修会や、あるいは全国研修会も士会 HP をご参考にして参加くだされば幸いで
す。

修正案 2：研修は、土曜日のみでなく、日曜日での開催もお願いします。私は土曜日仕事で
す。私以外の方も土曜日はお仕事の方もおられると思います。日曜日お仕事の方もおられ
ると思うので、調整していただけたらと思います。ご検討よろしく願いいたします。

回答：大阪・和歌山支部では日曜祝日開催を原則にしていますのでご安心ください。4 月の
今年度第 1 回は土曜日開催となりご迷惑をおかけいたしました。おっしゃる通り、日曜日
もお仕事の方がおられるでしょうから悩ましいところですが、支部スタッフの都合もあり

日曜祝日開催を原則にしています。また、講師の都合を調整しなければなりません。ご理解をよろしくお願いいたします。

2-3. 2022 年度予算案について（資料 3 参照）

承認 108、修正後承認 1（修正意見がないため無効票）、反対 0 により仮成立とする。ご意見なし。

2-4. 研修会のハイブリッド開催について

承認 106、修正後承認 3（うち修正意見なしで無効票 1）、反対 0 により仮成立とする。

承認意見：オンライン開催は年配者にとって参加しやすく助かります。

回答：ありがとうございます。士会本部の考え方も同じですが、支部としてコロナ収束後も会員の旅費や出張負担軽減に鑑みて可能な範囲でオンライン研修会を続ける意向です。

修正意見 1：承認された内容と異なる費目に流用することが可能なのか、また次年度以降に再び機器購入予算の申請が通るのかという点がクリアされるのであれば承認。

回答：ハイブリッド研修会用の機器購入予算を今年度は業者委託費に流用可能かというご心配をいただきました。この議案を公示する前に、本部の会計担当者から許可を得ていますのでご安心ください。また、予算編成は、支部体制を含む事情の変化に応じて、単年度ごとに検討されることになっていますので、次年度以降に購入の場合であっても通るはずです。

修正意見 2：本研修会以外でもハイブリットの授業など進んでいる世の中でなので、今後も自前でハイブリット開催ができるように、支援業者からスキルを教えていただき、少しでも早く委託費をかけずにハイブリット開催ができるようにしていただきたいです。

回答：おっしゃるように経費節減は大切なことですが、支部スタッフに OA 機器の熟知と実施練習が必要なところ、前年度役員が一部交代して、慣れた者がほとんどいない現状があります。支部スタッフにそもそも専業従事者はおらず、本務とは別に無報酬で働く支部スタッフに負担がかからないことも必要な点をご理解いただき、少なくとも現役員によるスタッフ体制では、業者委託が続く可能性もあることをご了承いただきたく存じます。

支部役員の業務の重責のために役員を引き受ける会員が少なく、同じ者が長く務めざるを得ないことは士会でたびたび問題になってきました。予算の使途も機構の承認が必要なところ、ようやく一部の特定業務に報酬が認められるようになってきましたし、会員個人情報を含まない事務面での業者委託は、現在、士会全体としてむしろ増えつつある現状をご理解いただきたく存じます。

2-5. 2022 年度支部役員体制について

承認 108、修正後承認 1（修正意見なしにより無効票）、反対 0 により仮成立とする。ご意見なし。

以上